



普 建 第 6 0 号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

岩手県普代村長 深 渡



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

平成20年9月19日付け国道企第37号にて依頼ありました標記について
別添のとおり提出いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

岩手県普代村

道路特定財源制度が廃止をされていく中、三陸沿岸部などでは、今やっと高規格ネットワークづくりがスタートをした段階にあり、今後の道路整備の停滞を大変に危惧しております。

自動車交通に頼らざるを得ないが故に、その財源を当然に多く負担をしてきた地方が、なぜこれからという時に切り捨てられるのか理解できないところです。新たな中期計画においては、これらの事情や地方に住む者の心情を十分汲み取った内容となるべきと考えます。

また、B/Cの算定の考え方がありますが、人間の根源たる命が道路に係わることや、どうしてもコスト高となる地理、地形であることをもっと参酌すべきでもあります。今後の道路投資は、ぜひ地方に集中・シフトいただくことを切望するものであります。

なお、東北地方以北の冬季施工を極力前倒しする工夫をしていただきコスト削減をされることや、諸法人、特会関連での無駄な支出の排除などにも不断の取り組みをされ、国民の信頼を得ての道路行政の推進にも、さらに意を用いるよう要望するものであります。

○現状

三陸漁場の恵まれた水産資源や、陸中海岸国立公園に属する優良なる自然景観を生かしきる地域づくりに取り組んでいる。

水産業は、ワカメ、コンブの養殖漁業にも力を注いでおり、春季にはその加工資材の搬入、重量のある塩蔵製品の出荷がピークとなり、仙台市への安全搬送に苦慮をしている。

また、秋季からは鮭定置網漁業が最盛期となり、その鮭漁出荷は、日々、築地市場などへの時間との戦いを繰り返している。

観光グリーンツーリズムでも、誘客活動を積極的に行って、地域の歴史、文化の発信と交流人口の拡大も図ることとしている。

○課題

安全・安心な水産物を都市住民に積雪時を含めて安定的に供給し続け、市場の信頼を強固なものとしブランド力をつけるためには、輸送のスピードアップとそのコスト削減が喫緊の課題となっている。

また、観光客入込みの増加には、新幹線仙台駅、盛岡駅、八戸駅からのアクセス路の整備が希求されて久しいが、依然として抜本的な改善が図られず、本年の地震災害の風評被害などすら克服していないところである。

恵み豊かな漁場への出漁基地となる県営 2 漁港を含む 6 漁港や、近年農業用ダムを含めて整備した160ヘクタールの農用地など、基盤・基礎が堅固となった本村地域は、いよいよ、海・里・山の豊かな資源を最大限に活かす、元気な農林漁業の再生、復活を図っていくこととしている。

特に、世界三大漁場の沿岸域は本村の宝であり、この漁獲と八戸市などの他地域から受け入れる水産物を活用した、県営太田名部漁港一帯での水産加工団地形成には大きな期待が寄せられている。

また、定住自立圏構想での周辺地域の役割を担うべき地域として、高規格自動車道やより多くの地域と連絡できる道路と産直施設などの整備を図りつつ、「豊かな自然」、「安全、安心な食」、「健康と癒し」を都市部に安定して供給し続ける、豊かで活気あふれる漁村づくりを目指しているものである。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式 ④

岩手県普代村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・水産業の活性化による元気な村づくり ・体験観光客の増加などによる交流人口の拡大する村づくり	三陸縦貫自動車道、三陸北縦貫道路及び八戸・久慈自動車道 主要地方道岩泉平井賀普代線及び一般県道普代小屋瀬線	本村で生産される海藻類 4,900 トンや鮮魚類 3,800 トンの仙台市や東京都築地などへの出荷が安全かつ容易になるとともに、北海道や八戸市からのイカやサンマ類の加工原料の搬入が拡大できるなど水産業、加工等の全体的な活性化と雇用の増加にも大きく寄与できる。 下閉伊北部には、日本三大鍾乳洞の「龍泉洞」、国内で唯一の特A級格付の海岸景勝地「北山崎」、県下最高の自然海岸率を誇る黒崎海岸を望む「黒崎園地」などの優良の観光資源が多く、また、体験観光客も急激に増加をしており、アクセス路線の整備により観光振興と交流人口の拡大が図られる。	